ＪＰＣニュース　第４号（2007年６月）

Japan Pentecostal Council ニュース

日本ペンテコステ協議会
事務局：日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団本部内
〒170-0003　東京都豊島区駒込 3-15-20　Tel 03-3918-5935

『権勢によらず、能力によらず、
わたしの霊によって』（ゼカリヤ書４章６節）

ペンテコステ信仰に立つ

２００９年はプロテスタント日本宣教１５０周年です。その間来日した宣教師により開始され、多くの信仰の先輩の牧師等によって、日本の各地に教会が出来ました。戦後、ペンテコステ信仰の教団や単立の教会も確立されてきました。大変喜ばしいことです。点から線そして面になるよう教会が増えてきました。
同じ信仰に立つＪＰＣの群がいよいよ聖霊の力に押しだされて、日本宣教の一翼を担い、地域に根ざして神の御期待に添う群としていただきましょう。
主をあがめつつ宣教の実を結ぶペンテコステの教会、主をあがめつつ聖霊の賜物に満ち、聖霊の実を結ぶペンテコステの教会とならせていただきたいものです。
福音を宣べ伝え、主が共に働き、み言に伴うしるしをもって、み言が確かなものとなりたいものです。

議　長　　内村 撒母耳

日本ペンテコステ協議会（JPC）
加盟団体　代表者写真

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団
理事長　内村 撒母耳 師
JPC議長

日本チャーチ・オブ・ゴッド教団
監督　八束 和心 師
JPC副議長

イエスキリスト福音の群
代表　永井 信義 師
JPC書記

単立ペンテコステ教会フェローシップ
代表　小山 大三 師

日本オープンバイブル教団
代表　菅原　亘 師

シオン宣教団
代表　松本 光弘 師

日本ネクストタウンズ・ミッション
副代表　三坂正治 師

日本ペンテコステ教団
代表　榮　義之 師

神の家族キリスト教会
代表　水野 明廣 師

日本ペンテコステ協議会規約

1）本会は、名称を『日本ペンテコステ協議会』(Japan Pentecostal Council　略称 JPC）とする。

2）事務局

本協議会の事務局を日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団本部に置く。

3）目的

本協議会の目的は、日本におけるペンテコステ信仰の健全な成長と発展を促進するために、ペンテコステの教団及び教団に準ずるグループの指導者・教職者間における交流を深め、情報交換及び相互理解を図り、教職研修を行うことにある。

4）信仰宣言

本協議会の構成員は、以下の信仰宣言を告白するものとする。

1．わたしたちは、聖書が霊感された、唯一の誤りのない権威ある神の言葉であることを信じる。

2．わたしたちは、父と子と聖霊の三位において永遠に存在される唯一の神を信じる。

3．わたしたちは、わたしたちの主イエス・キリストの神性、処女降誕、罪のない生涯、奇跡、十字架の血による代償的贖罪的犠牲、肉体をもっての復活、父の右の座への高挙、また、力と栄光の中での再臨を信じる。

4．わたしたちは、失われた罪人のためには、みことばと聖霊による新生が不可欠であると信じる。

5．わたしたちは、異言の証拠を伴う聖霊のバプテスマを信じる。

6．わたしたちは、聖霊の今日的働きによる肉体の癒し、および種々の聖霊の賜物を信じる。

7．わたしたちは、聖霊の内住によって清い敬虔な生活が可能となることを信じる。

8．わたしたちは、わたしたちの主イエス・キリストにおける信者の霊的一致を信じる。

9．わたしたちは、聖徒の復活、失われた者の審判、新天新地を信じる。

5）活動

定期的に会議を開催し、各教団及びグループの指導者・教職者間の交流、意見・情報の交換、研修その他必要な活動を行う。広報誌と機関誌を発行する。

6）総会

本協議会は最高議決機関として総会を置く。総会は、加盟教団にそれぞれの教会数に応じて割り当てられた数の代議員によって構成する。

50 教会以下	代議員 1 名
51～100 教会	代議員 2 名
101 教会以上	代議員 3 名

7）役員

本協議会に議長、副議長、書記、会計を置き、その任期を 3 年とする。役員会は議長によって招集され、定期的に開催する。

8）経費

本協議会の経費は、加入団体の負担とする。

9）附則

本規約は、1998 年 5 月 29 日より実施する。この規約の変更は総会の議決を経て実施する。また、2003 年 3 月 25 日に改正された。

加盟団体一覧

日本チャーチ・オブ・ゴッド教団 （略称：ＪＣＧ） 監督　八束 和心 所在地：東京都大田区矢口２－１－１８	日本ネクストタウンズ・ミッション （略称：日本ＮＴＭ） 代表者　藤田 光康 所在地：三重県松阪市船江町４５２
単立ペンテコステ教会フェローシップ （略称：ＴＰＫＦ） 代表者　中見　透 所在地:静岡県御殿場市東山７１１－２４	日本オープンバイブル教団 （略称：ＪＯＢ） 代表者　菅原　亘 所在地:神戸市長田区戸崎通３－９－１２
日本アッセンブリーズ･オブ･ゴッド教団 （略称：ＡＯＧ） 理事長　内村 撒母耳 所在地:東京都豊島区駒込３－１５－２０	シオン宣教団 （略称：ＺＭ） 代表者　松本 光弘 所在地：東大阪市岩田町５－１５－２８
イエス・キリスト福音の群 代表者　永井 信義 所在地：宮城県黒川郡大衡村ゴスペルタウン	日本ペンテコステ教団 代表者　榮　義之 所在地：奈良県生駒市俵口町９５１
神の家族キリスト教会 代表者　水野 明廣 所在地：名古屋市千種区赤坂町４－６４	日本フォースクエア福音教団 代表者　比嘉 幹房 所在地：沖縄県糸満市糸満６２６

日本チャーチ・オブ・ゴッド教団
― 世界宣教への取り組み ―

八束和心

日本チャーチ・オブ・ゴッド教団の各教会のメンバーは、昨年川口リリアを会場にして行われた聖霊宣教大会に積極的に参加して大きなチャレンジを受けました。特に、世界各地で活躍する日本人宣教師の方々や、イスラム圏を通ってエルサレムまで福音を伝えようというブラザー・ユン師はじめ中国のクリスチャンの姿勢には教えられました。今年、教団主催で行われる新年聖会と五月聖会の主題は、聖霊宣教大会そのままに「Passion for Japan Vision for the World!聖霊と力に満たされ世界に伝えよう!」とさせていただきました。

今まで教団として、フィリピンにある教団の孤児院を毎年経済的に支援してきました。また、現在までに合計５回、中国やフィリピンに青年中心の宣教チームを派遣し、宣教地でのミニストリーを体験しました。それによって、教団内の若者に世界宣教のビジョンが少しずつ確立してきていることを感じます。来年には、ルーマニアに宣教チームを派遣したいと願っています。また、福音宣教の最終目的地であるイスラエルに目を向け、エルサレムの平和とユダヤ人の救いのためにも祈り始め、イスラエル聖地旅行を今年９月に計画しています。主が再び来られる前に、尊いキリストの福音が全世界の人々に宣べ伝えられ、また、神が歴史上特別に愛し用いられたユダヤ人が救い主イエス・キリストと出会うことができるよう、熱く祈り、惜しみなく捧げ、また、導かれる所へは出かけて行く所存です。

日本ネクストタウンズ・ミッション
「備えの時」

三坂正治

ＮＴＭ（ネクストタウンズ・ミッション）は１９５６年１１月、ジョン・マックス、ベル＆ルツ夫妻（当時、米国テキサス州サンアントニオ リバイバルテンプル シニアパスター）の来日によって、１９５７年６月、天幕伝道からスタートした群れです。

現在２５の教会と４０名の教職から成る、交わりを中心としたグループです。すでに宣教５０周年を迎えました。

前半期は勢いよく進展し続けておりましたが、現在、静寂の時を迎えております。「あなたは、地を訪れ、水を注ぎ、これをおおいに豊かにされます。神の川は水で満ちています。あなたは地の下ごしらえをし、彼らの穀物を作って下さいます。地のあぜみぞを水で満たし、そのうねをならし、夕立ちで地をやわらかにし、その生長を祝福されます。」（詩篇６５：９、１０）夕立ちによる急成長がもたらされる時に備えて、現在下ごしらえに取り組んでおります。忍耐期こそ備えの時であり、大いなる訪れの日を期待しつつ、網の破れの繕いに専念しております。小さな群れを覚えてお祈り頂ければ幸いに存じます。

ペンテコステ協議会の上に祝福が豊かに増し加えられますようにお祈りしつつ。

単立ペンテコステ教会フェロシップ（TPKF）
－伝道への取り組み、ビジョンはリーダーから－

文責　中見 透

アメリカ、ノルウエー、スエーデン、フィンランド、デンマークより遣わされた宣教師達は神奈川、千葉、東京、静岡、山梨、愛知、福井、石川、京都、大阪、四国、北海道等で宣教の使命に燃えて教会形成をしてきました。現在、日本人教職者８４名、宣教師２６名、６４教会の教会があります。

ここ数年働き人の世代交代が求められるにもかかわらず、なかなか進展しない現状を話し合った結果、リーダーの意識と次世代の育成の底上げが必要とされているとの認識にいたり、昨年の大会ではリーダーシップ育成専門機関のハガイ・インスティテュートから国際講師であるティッサ師（スリランカ）をお招きし、過去を振り返りつつ主のなされた御業を感謝するひとときを持ちました。開拓期の草分け的リーダーの諸先生方の労苦に感謝し、次世代の奉仕者に手を置いて祈るときを持ちました。

今年の４月、長野県高遠で TPKF 全国大会を開きました。これからの TPKF の将来を方向づける内容のリーダーシップセミナーでした。再びハガイ・インスティテュートより講師陣を国内外からお招きし、１日６時間の集中講義を５日間持ちました。

今回のリーダーシップセミナーでは、リーダーであることの資質、リーダーの成長プロセスにおける試練と展望、ビジョンの捉え方、具体的な目標設定、伝道とは、現代社会に即した具体的な伝道方法、教会形成と経済のあり方・・・等、多くの有意義なセミナー課題を学ぶことができました。ハガイセミナーは「全ての部族、民族、特に世界の福音化されていない地域に住む人々に対し、その国の人が文化的な適切さと敏感さを保ちつつ聖霊のみ力によって福音が確かに伝えられるようにするのを助ける」ことを目的とし、「ハガイの訓練をもって、その国のリーダー達が自分たちの仲間や他の人々をキリストに導く伝道のプロセスを加速させる影響力を持つようにする」ものです。

伝道とはキリストを伝えること、キリストの十字架と復活を通して提供されている罪の赦し、神との生ける交わり、永遠のいのちの希望を伝えることにあります。その為に特別伝道集会、日曜学校、個人伝道、トラクト配布、伝道的セル、コンサート、ゴスペル教室、料理伝道、講演会、英会話教室、開拓伝道・・・と救いの入り口を多く設けて、多くの人が福音を聞く多くのチャンスを持つことができるようにと予算を立て、企画し、動員し、広告をしてきました。今回のセミナーで伝道とは何か、という基本的な問いかけがなされた中で、伝道とは基本的にプログラムではなくライフスタイルであることを認識しました。大会から大会、集会から集会をすることに終始するのではなく、自分の内側が変えられていくことがまず重要なこと、キリスト者がまずキリストのように変えられていくこと、つまり、キリストの形が自分の中に形成されていく時、まさに伝道が行われている事に他ならないことを学びました。リーダー自らがまず整えられ訓練され建てあげられる事、そして、後に続くリーダーに模範を示し、共に働きつつリーダーシップを委譲していくことが今の TPKF の優先課題です。

日本オープンバイブル教団
― これからのビジョン ―

菅原　亘

日本がアメリカと戦争し完膚なきまでに打ちのめされ、戦後がスタートしました。日本の指導者たちの判断と見通しの甘さと愚かさが無条件降伏と言う完敗を喫したことが、むしろ戦後の日本の復興の早さをもたらしたことは皮肉と言うべきか、神の配慮と言うべきか。アメリカからマッカーサー司令長官がやって来て戦後の日本の統治を開始しました。

彼は日本人の精神年齢は12歳以下だと言ったそうでありますが、それは聖書を知らない日本人の霊的無知をさして言っていたと言われます。マッカサー司令官は日本に宣教師を2千人派遣することを宣言しました。日本統治にやってきた若きGIたちの中には、日本の惨状を目の当たりにして、日本を愛する思いが与えられ、日本の霊的な復興のために一度帰国して、今度は日本の統治のためにではなく、日本人に仕え、神の愛を伝えるために、宣教師の訓練を受けて再び日本の土を踏む者たちが大勢いました。その中にアメリカオープンバイブル教団から派遣された宣教師たちがいたのです。1955年頃のことでした。東京、西宮、神戸から開拓伝道が開始されました。以来５０年の歳月が経過しましたが、現在では全国で15の教会、伝道所が開設されています。全信徒数は800名余、全教職者数は40名余の群れとなっています。決して充分な成長とは言えない現状ですが一歩一歩、坂を上り続けております。どの教会、どの教団でもキリストの教会にとって特殊なビジョンやユニークなビジョンはないように私は思っております。概して同じようなビジョンにならざるを得ないのが現実であります。聖書に基づいて計画するわけですから当然と言えるでしょう。

教会成長こそビジョンの根底になければなりません。個々の地方教会の成長が教団の成長の基礎となります。信徒レベルの向上、開拓教会の増加、教会の複数牧会への成長、献身者の増加、ユースの教育宣教、海外への宣教師派遣、これらのための予算を優先的に当てるように決定して行きます。毎年2割成長を宣言していますが、現実には結構高い目標となります。4年で倍増する訳ですから決して安易な目標ではないことは確かです。教団では個々の地方教会の自主性、独自性を大切にして行きます。お互いに助け合い祈りあいますが、教団で個々の教会を束縛しないように自由に判断して行くことを奨励しています。しかし仲間意識はしっかりと保ち良い交わりと助け合いは失わないのが今までのやり方であったし、これからもそのようなやり方になって行くと思います。各教会の十分の一献金（ボーナス分も含む）の十分の一を教団運営に用います。小さい教団と言うこともあるでしょうが、みなとてもよくまとまっており激しい意見の対立を見ることもなく温厚な良識のあるしかも霊的なことを最優先するバランスある群れですが、今後ともそのよう気風を大切にしながら日本と世界の霊的復興のために大きく貢献し一翼を担う群れでありたいと強く願っております。

信徒の高齢化の問題にも強く危機意識を持って取り組むように個々の教会に指令を出しています。若い献身者が出てくることが問題解決のポイントとなります。そのためにもユースの成長のために予算を重点的に配分することがとても大切なことと考えております。

教会が大きくなり信徒の数が増加すること、これが多くの諸問題を解く鍵です。

シオン宣教団
ー 伝道への取り組み、ビジョン ー

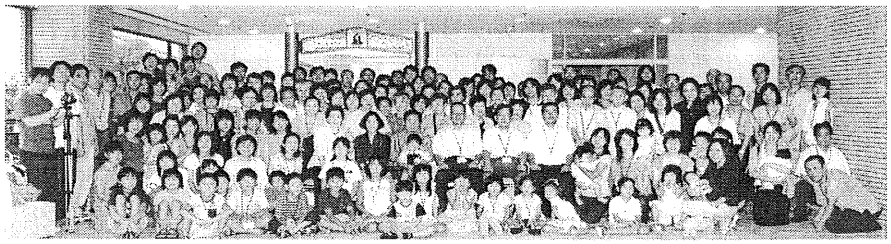
シオン宣教団は１９８６年に設立。以来、東大阪、和歌山を拠点に、４７都道府県に教団教会を建て上げるべくビジョンをもち、日本全国の福音化を目指した。当初特に日本海側を中心に重荷を持ち、新たな開拓地に導かれ、山陰の松江、北陸の金沢とそれぞれ開拓教会を建てあげた。最近では西大阪の大正区にも教会が献堂され、現在、堺市にも福音の種を蒔き、大阪は東と西と南をトライアングルに取り囲むように力強く宣教がなされ、鳥取では粘り強く宣教活動を展開し、種まき期から群れの形成へと導かれています。

以上がこれまでの経過でありますが、これからの私たちの教団としての伝道への取り組みまたはビジョンについても、これらを宣教または信仰の基調として持ち続け、さらに用いられたいと願っております。さてそこで、現在私たちは一つのペンテコステの群れとしての召しと選びを再認識し、確認し、同じ見識や信仰のもと一致し、またバランス良く新しい創造性に向かうべきことをしっかりと見据えて進まなければならないといつも話合っています。ここ最近日本では、以前から見られるような形での団体での聖会が少なくなってきておりますが、私たちは一年に一度ではありますが、それぞれの教会を挙げて一堂に会し、毎年途切れることなく必ず聖会を催しています。それは一つ召しのもとに植えられたという真理がそれぞれの教会だけに与えられたものではなく、教団として、群れ一丸となってこの福音宣教を成し遂げるためです。各集会ではそれぞれの教会の賛美チームが賜物や個性を出し合い担当し、大声で賛美し、満たされ、圧倒される臨在に触れています。ここ数年の聖会のテーマにおいては『変わらないものと変わるべきもの』や『ペンテコステ信仰の継承－エリヤの外套を掴め－』、『主なる神の霊がわたしに臨んだ－宣教と解放－』など「聖霊」をテーマとするものがほとんどであり、聖霊についての学びを深めるだけではなく、聖霊待望会では老若男女を問わず、異言の証拠を伴う聖霊のバプテスマを力強く受けています。日本のリバイバルを考えるにあたって、新しい方法論が多く飛び交う昨今、ここに一つ、私たちの本分があるのではないかと大切に思っているのです。

そして、そこから更に進んで、新しくキリスト教の日本文化が教会から発信され確立されて、年配の方々でもキリスト教文化に日本人として平安を感じ慰められるような教会づくり、また若いこれからの世代がどんどん救われてくるように、新しいことにもアンテナを持ち、取り入れ実践し、改良し工夫を重ねて、喜びと平安に満ちた楽しい魅力ある教会、またそこに義を愛し、清さを保つ、愛に生きる健全な教会を建て挙げていきたいと願っています。‘０７年今年の夏の聖会のテーマは『ヘルシーチャーチ・ヘルシークリスチャン』です。

各教会伝道プログラムとして、キャラバン伝道、ゴスペル・クワイヤー、体操・ダンス会、メビックプログラム、アルファコース、茶道と聖句書道、The Purpose Driven の学びと実践、コンサート伝道ほか多数。

シオン宣教団・夏期聖会



イエス・キリスト福音の群
― 宣教への取り組み ―

現在、北は岩手県、南は宮崎県に広がる14の教会のネットワーク―「イエス・キリスト福音の群」では、50周年（2012年）までに20の教会の群れへと成長することを目指し、各教会で開拓への取り組みを進めています。すでに昨年から佐賀県鳥栖市で永井明牧師を中心とする宣教チームが開拓をスタート、また、2007年秋からは宮城県仙台市中心部での、主にユースを対象にした集会を企画、将来の教会形成を目指して準備をしています。

いくつかの教会ではゴスペル・クワイアやアルファ・コースが伝道のツールとして用いられています。また、超教派での伝道協力会などに参加し、未伝地区へ宣教に協力しています。

群れの設立の初期から海外での宣教にも従事。拡大宣教会を通して、フィリピン、マレーシアに宣教師を派遣、また、アフリカやインドネシアなどの献身者や神学生を支援、メキシコの宣教を応援するなど、宣教地の教会との協力のもとにその働きを進めています。現在は、各教会からも具体的な宣教支援が行なわれています。

日本ペンテコステ教団
― 教団の宣教の取り組み ―

榮　義之

“その日、すなわち週の初めの日の夕方のことであった。弟子たちがいた所では、ユダヤ人を恐れて戸がしめてあったが、イエスが来られ、彼らの中に立って言われた。「平安があなたがたにあるように。」
こう言ってイエスは、その手とわき腹を彼らに示された。弟子たちは、主を見て喜んだ。
イエスはもう一度、彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。」そして、こう言われると、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。”（ヨハネ20：19-22）

昨日も今日もいつまでも変わらないイエス・キリストの御名を賛美します。
「父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがを遣わします！」と、主の御約束を基に教団は宣教に取り組んでいます。

第一に世界宣教は、中国＆北朝鮮宣教を大阪救霊会館に本部を置いて、意欲的に取り組み続けています。旧北満を中心に海南島に至る地下教会支援や説教奉仕。さらに北朝鮮への物資援助だけでなく、脱北者のサポートのためにも祈りつつ励んでいます。
エリムキリスト教会を本部としたアフリカ宣教も18年を迎え、毎年7月に短期宣教として神学生を派遣し、ケニア最大の飢餓地帯トルカナへの食糧援助。パラ

ダイス孤児院（50名養育）やMFA小学校の運営、さらに現地での教会活動などを支援しています。

第二に、日本のリバイバルを念願とし、4月より堺市、東大阪市、門真市に伝道師を派遣し、開拓伝道に取り組んでいます。この3箇所はマンション内に3年間無償で新築教会堂が提供され、開拓伝道が開始される特殊な方法での取り組みです。

第三に、インターネット放送による宣教に取り組みます。今はIT時代と言われていますが、教団はその取り組みに対してはずいぶん遅れており、追いつき追い越せどころか、まだスタートもしていない状況であり、多く知恵をいただきながら前進しようとしているところです。

第四に、パワーフォーリビングの協力により、今まで福音に振り向か無かったような層の人々を、教会に引き寄せることを知り、さらに「文書伝道への取り組み」を重厚にできればと願っています。

最後に、生駒聖書学院への献身入学者を、将来を担う働き人として、みことばと聖霊に満たされた器として養成するが、宣教の前進を促進するものと確信し、献身者が多く輩出するよう、弟子つくりにも力を入れたいと願っています。

「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」使徒1：8。

神の家族キリスト教会
－２００７年の宣教と抱負－
誰でも生かされ、用いられる季節がやってきた

水野明廣

「･･･あなたがたはこの山に長くとどまっていた。向きを変えて、出発せよ。･･･」申命記１：６－７

この言葉は、実はモーセが４０年の荒野の試練の旅の終わりに、今まさに神が約束のカナンの地に向かって主の民を前進させるために語られた御言葉です。

今は神の家族の群れにまで成長させ発展させてくださった主なる神は、この地で始まった開拓教会の時から数えて４０年を迎えさせようとしておられますが、この年を一つの区切りとして、これからは一段と新しく、さらに大きな祝福の時代に突入していくのだという思いをとても強く与えてくださっています。

この神の家族の諸教会にとっても数々の主の約束がなされてきましたが、それらが成就される季節を迎えたと信じて、これからますます信仰によって主への賛美と感謝をささげ、主を礼拝し、人々を愛する宣教のためにも前進させていただきたいと願っています。しかも、ますます聖霊の風が強く吹いてきてくださる預言の御言葉が与えられています。

これからの時のために祈る度に、主は聖霊によるすばらしい恵みを見せてくださいますが、特に、「私たちはみな、この方（主イエス･キリスト）の満ち満ちた豊かさの中から、恵みの上にさらに恵みを受けたのである。」（ヨハネ１：１６）

という主の御言葉をいただきました。恵みの父なる神による聖霊の恵みの風がますます吹きまくってくださる事を期待しましょう。「･･･日の上るほうでは、主の栄光が恐れられる。主は激しい流れのように来られ、その中で主の息が吹きまくっている。」（イザヤ５９：１９）。
主は、今日までの私たちの労苦を何一つ忘れてはおられませんし、私たちの主にある愛の奉仕はすべて覚えられています。主が約束されたように、これからは恵みにより、一方的に主が、「ふさわしくない」、「自分なんか価値もない」と言っている者に、思いをはるかに超えた良い収穫をもたらしてくださることでしょう。「自分には無理です！」と思っている人にさえも主の恵みの聖霊が流れ、主の良いわざと働きを与えてくださいます。

主はあまりにも大きな恵みで働いてくださり、主が立ち上がってくださるために、これからはさらに刈り取りの収穫のため、積極的に身を捧げていきたいと願っています。もう既に主は約束しておられます。「あなたがたは、『刈り入れ時が来るまでに、まだ四か月ある』と言ってはいませんか。さあ、わたしの言うことを聞きなさい。目を上げて畑を見なさい。色づいて、刈り入れるばかりになっています。すでに、刈る者は報酬を受け、永遠のいのちに入れられる実を集めています。それは蒔く者と刈る者がともに喜ぶためです。こういうわけで、『ひとりが種を蒔き、ほかの者が刈り取る』ということわざは、ほんとうなのです。わたしは、あなたがたに自分で労苦しなかったものを刈り取らせるために、あなたがたを遣わしました。ほかの人々が労苦して、あなたがたがその労苦の実を得ているのです。」（ヨハネ４：３５－３８）。

神の家族キリスト教会に属するすべての皆様と共に「主の恵みを十分に生かせる者にならせて」と祈り、魂の収穫にすべての聖徒がかかわることも願っています。

日本フォースクエア福音教団
― 福音宣教のビジョン ―

国内宣教局長：金城　達則

「あなたの天幕の場所を広くし、あなたの住まいの幕を惜しみなく張り伸ばし、綱を長くし、鉄の杭を強固にせよ。あなたは右と左にふえ広がり、あなたの子孫は、国々を所有し、荒れ果てた町々を人の住む所とするからだ。」（イザヤ５４：２－３）。

上記の箇所は１９９５年、沖縄で開催されたフォースクエア東洋委員会（ＥＣＦＣ）会議のテーマでした。それまでの日本フォースクエア福音教団の歴史の中では、個々の教会に対する視点しか存在せず、全体を見る視点に欠けていた。しかし、上記の聖書箇所から主は日本全体の姿を見せて下さった。沖縄上空から日本全体を見ると、それがあたかも人間の体のようであり、骨のような一本の線でつながって見えた。北海道が頭で、本州が胴体、九州が足のように見えた。

日本の大都市は点のように散らばっているが、その時福岡、大阪、名古屋には

フォースクエア福音教団の宣教の働きがなされていなかった。宣教が大都市でなされると点は線で互いに結ばれつながって、日本全体に及ぶ。線で結ばれた主要都市にある教会が宣教の拠点となり、新たな教会が生み出され、相互に連なった線が面となり日本全体に広がって行く、そのような幻とイメージが比嘉総理に与えられた。

この幻をふまえて、教団は将来構想委員会を立て上げ、具体的な戦略の検討を図った。１９９５年当時は１０教会に過ぎなかった。それを２０００年までに２０教会になる目標を立て、祈った。主は祈りに答えて下さり、２０００年に２５教会となり、名古屋、大阪に開拓がなされ、ブラジル、アメリカ、フィリピン、韓国からの宣教師や伝道者が加わり、働きは加速的に展開されてきた。２００７年３月現在、３７教会に８４名の教職者まで増え、主の福音の宣教は進められている。

２００６年教団では将来への新たなビジョン、理念、目標、戦略、戦術を設定し、その達成に向かって祈りつつ働きを進めている。日本の１０％の人々にフォースクエアの四重の福音を伝え、弟子を作り、教会を建て上げることをビジョンとし、伝道と宣教に重点を置き、聖霊に満たされた教会を建て上げることに努め、教えと行いのバランスを保ち、教団教派を超えた宣教の心をもつことを掲げて、２０１０年までに１２０人の教職者を整えることを目標にしている。

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

－日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団の現況報告－

日本アッセンブリーズ･オブ･ゴッド教団は､2006年11月14日(火)～17日(金)まで、東京・駒込本部にある中央聖書神学校で、教団総会が開催されました。3年ごとにもたれる教団役員の改選の年でもありました。

新しく選ばれた教団理事長は内村撒母耳師（名古屋神召キリスト教会)、理事に細井眞師（十条キリスト教会・総務局長)、高口喜美男師（川尻キリスト教会・財務局長)、川上良明師（仙台神召基督教会・教育局長)、船津行雄師（金沢キリスト教会）平松慶次師（和泉神愛キリスト教会)、天野弘昌師（草加神召キリスト教会・伝道局長）でした。また、監事は吉山宏師（小岩栄光キリスト教会)、柏崎久雄師（千葉福音キリスト教会）でした。

新年度の標語は「私の教会を建てる」。聖書箇所はマタイによる福音書16：18「そこで、わたしもあなたに言う。あなたはペテロである。そして、わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てよう。黄泉の力もそれに打ち勝つことはない。」であります。教団・教区・諸教会あげて「キリストの教会を建てる」を目ざして聖霊に満たされ励んでいます。

3月には中央聖書神学校より3名が卒業し、それぞれの任地に就きました。又、1夫婦が教団に教職として加入致しました。4月には、神学校に昼間の学生3名、夜間の学生3名　計6名が入学致しました。（今年の入学生より夜間コースだけで卒業し伝道者になれることになりました。）

5月2日(水)～4日（金）は、「わたしの教会を建てる」を標語に、全国聖会を

川口リリアで開催致しました。2500 名を越える参加があり、多くの若者が「キリストの教会を建てる」ことに献身致しました。

主講師として、マレーシアよりプリンス・グネラトナム師をお迎えし、4 回のメッセージと教団理事長の内村撒母耳師が 2 回メッセージを下さり、豊かな主の恵みにあずかることが出来ました。

夏には 11 の教区で青年たちのキャンプが盛大にもたれることになっています。10 月、11 月には、教区聖会が集中してもたれます。(沖縄教区聖会は 1 月にすでにもたれました。)

青少年伝道部は、大学生伝道（カイ・アルファ ＸＡ）を活発に進め、海外宣教部はモンゴル、台湾、カンボジア、フィリピンに宣教師を派遣しています。国内伝道部は、6 月に国内伝道部主催の教職研修会として「牧会者リフレッシュ・カンファレンス」を 3 日間行なおうとしています。

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団は 2005 年 12 月末現在、教職者数 395 名、神学生数 15 名、教会数 153、伝道所数 64、合計 217 です。信徒合計数 14,586 人、礼拝出席者数は 9,332 人です。礼拝者が 1,000 名を越える教会（草加神召キリスト教会）が起こされ、主を崇めると共に、礼拝者が 9 名以下の教会も 35 あります。また、教職も高齢化してきていますので、益々教職となる献身者を必要としています。一層のお祈りをお願い致します。

祈り。

日本ペンテコステ協議会（JPC）会計決算報告

2006年1月1日～11月27日

収入の部		支出の部	
項　目	金　額	項　目	金　額
負担金①	290,000	総会	20,908
総会会費	18,000	研修会	163,903
研修会 会費	95,000	役員会	38,716
		PWF 負担金	57,730
		新聞広告②	21,000
		その他	5,000
小　計	403,000	小　計	307,257
前年度繰越金	746,186	次年度繰越金	841,929
合　計	1,149,186	合　計	1,149,186

①単立ペンテコステ教会フェローシップ　40,000円
　日本チャーチ・オブ・ゴッド教団　50,000円
　日本ペンテコステ教団　30,000円
　日本フォースクエア福音教団　20,000円
　日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団　150,000円
②リバイバル新聞：ペンテコステ特集　21,000円

会計　船津行雄

日本ペンテコステ協議会　役員会

議　長　内村撒母耳
副議長　八束　和心
〃　　中見　透
書　記　永井　信義
会　計　船津　行雄

ＪＰＣニュース第４号は、各教団の「伝道の取り組み、ビジョン」について掲載させていただきました。御協力いただきました教団の先生方に心より御礼申し上げます。

編集担当